

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 文学理解に必要な国語の知識や語彙を身につける。 【思考力、判断力、表現力】 作品や多様な価値観に深く共感したり、表現から豊かに想像する力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 自らを向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	新編文学国語（大修館書店）
教科	国語	科目名	文学国語			副教材	トータルサポート新国語便覧（大修館書店） 体系古典文法（数研出版） イラストとシーンでおぼえる Look @古文単語337 増補版（啓隆社） 高校生必修語彙ノート 三訂版（桐原書店）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	クラス単位				

	1 学期	2 学期	3 学期
授業 内容	<p>「少なくとも最後まで歩かなかった」村上春樹 (文学を通して、多様な価値観に触れる)</p> <p>「晴れた空の下で」江國香織 (象徴表現から主題を理解する)</p> <p>「永訣の朝」宮沢賢治 (詩における日本文学の歴史的流れを理解する リズムや表現技法を学び、味わい、詩への理解を深める)</p>	<p>「山月記」中島敦 (登場人物の性格や心情に着目し、近代文学を味わう)</p> <p>「かぐや姫の昇天」竹取物語 「月やあらぬ」伊勢物語 (象徴物を通して作品理解を深める)</p> <p>「鞆」安部公房 (小説に込められた寓意を読み取り、主題を理解する)</p>	<p>「ぼくのお母さん」川上未映子 (エッセイの構造を理解し、実際にエッセイを書く 生成AIを用いて、日記ではなくエッセイになっているかを推敲する)</p> <p>「はしたなきもの」枕草子 「手のわろき人の」徒然草 「行く河の流れ」方丈記 (古人のものの見方を理解し、作品理解を深める)</p>
授業時数	24	32	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識 及び技能	言葉ひとつひとつに真摯に向き合っていく態度と、そこから書き表されていることを正しくつかんでいく能力を高めていく。	漢字の読みや語句の意味を文章内容に即して理解できる。	漢字の読みや語句の意味を正しく理解している。	漢字の読みや語句の意味を確かめる。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力・ 判断力・ 表現力等	文章に書き表されていることについて考え、自分なりに意見をまとめ、それを自ら表すことのできる能力と姿勢を高める。	文章に書き表されていることの理解を踏まえて、そこに繋がるところまで思考していくことができる。	文章にどういことが書き表されているのかを正しく理解している。	文章に書かれていることに関心を持たず、その内容を考えようとしていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習 に取り組む態度	文章に意欲的に向き合い、そこに窺われる課題を、自ら考えていこうという態度を育てる。	文章についての課題を自ら見つけ、その意味合いを主体的に考え、自らの問題につなげられる。	文章に主体的に向き合い、その内容を意欲的に理解している。	文章に対して真摯に向き合うことができない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標 【知識及び理解】 言語表現に沿って他者の考えを理解する力を育成する 【思考力、判断力、表現力等】 的確で多様な自己表現が可能となるように語彙を獲得し、豊かな言語活動を育成する 【学びに向かう力、人間性等】 多様な論点や価値観に触れ、新たな視点から自己の考えを深める	教科書	新編論理国語（東京書籍）
教科	国語	科目名	論理国語		副教材	トータルサポート 新国語便覧 （大修館書店） 高校生必修語彙ノート 三訂版 （桐原書店）
単位数	2単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	クラス単位			

	1学期	2学期	3学期
授業内容	<p>「世界をつくり替えるために」小林康夫 (文章構成に着目して筆者の主張を読み取る)</p> <p>「『ふしぎ』ということ」河合隼雄 (具体例に着目して筆者の主張を読み取る)</p>	<p>「学ぶことと人間の知恵」長谷川眞理子 (多用される「問い」に着目して、筆者の主張を読み取る)</p> <p>「安心について」廣淵升彦 (世代間・文化間における価値観の差異に着目して読み取る)</p> <p>「複数の『わたし』」松村圭一郎 (分人主義を理解し、筆者の主張への理解を深める)</p> <p>論理とは何か (主張を読み解く方法論を使用し、適切に要約する 生成AIと要約文を比較し、批評する)</p>	<p>「はじめに『言葉』がある」堀畑裕之 (日本の文化観を理解し、筆者の主張を読み取る)</p> <p>「楽に働くこと、楽しく働くこと」小関智弘 (複数の文章を読み、筆者の主張を補う方法論を身につける)</p>
授業時数	24	32	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方についておおむね理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力・判断力・表現力等	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を高め、自分の思いや考えを深める。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にし、要旨を十分に把握することができる。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にし、要旨をおおむね把握することができる。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にし、要旨を把握することができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることが十分できている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることがおおむねできている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				<b>科目の目標</b> 【知識及び理解】 文章理解に必要な古典の知識や語彙を身につける。 【思考力、判断力、表現力】 作品やその歴史的背景にある多様な価値観に深く共感したり、表現から豊かに想像する力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 自らを向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	高等学校 古典探究（数研出版）
教科	国語	科目名	古典基礎演習		副教材	トータルサポート新国語便覧（大修館書店） 古典文法要点整理ノート（数研出版） イラストとシーンでおぼえる Look @古文単語3 37 増補版（啓隆社）
単位数	2単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	必修選択			

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	「伊勢物語」 （作品を通して、和歌の世界に触れる 作品が描かれた時代背景と古典常識の知識を深める）  「動詞の活用」 （動詞の活用の基礎を身につけ、文章読解に応用できる）  「大鏡（花山天皇の出家）」 （作品を通して、歴史物語の世界に触れる）  「形容詞・形容動詞の活用」 （形容詞・形容動詞の活用の基礎を身につけ、文章読解に応用できる）	「更級日記（東路の道の果て）」 （作品を通して、日記文学の世界に触れる）  「助動詞の活用①」 （頻出の助動詞の活用の基礎を身につけ、文章読解に応用できる）  「源氏物語（小柴垣のもと）」 （作品を通して、源氏物語の世界全般に触れる 主語の省略に気を付けながら読解を深める）  「助動詞の活用②」 （助動詞の活用の基礎を身につけ、文章読解に応用できる）	「平家物語」 （作品を通して、平家物語の世界全般に触れる 敬語表現に気を付けながら読解を深める）  「敬語」 （敬語の基礎を身につけ、文章の中で判別できる）  「史記（鴻門之会）」方丈記 （古人のものの見方を理解し、作品理解を深める 漢文の基礎を身につけ、書き下し表現ができる）
授業時数	24	32	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	言葉ひとつひとつに真摯に向き合っていく態度と、そこから書き表されていることを正しくつかんでいく能力を高めていく。	古典単語の意味や文法上の意味を文章内容に即して理解できる。	古典単語の意味や文法上の意味を正しく理解している。	古典単語の意味や文法上の意味を確かめる。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力・判断力・表現力等	文章に書き表されていることや歴史的背景について考え、自分なりに意見をまとめ、それを自ら表すことのできる能力と姿勢を高める。	文章に書き表されていることや歴史的背景の理解を踏まえて、そこにつながるまで思考していくことができる。	文章でどういことが書き表されているのかを正しく理解している。	文章に書かれていることに関心を持たず、その内容を考えようとしめない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	文章に意欲的に向き合い、そこに窺われる課題を、自ら考えていこうという態度を育てる。	文章についての課題を自ら見つけ、その意味合いを主体的に考え、自らの問題につなげられる。	文章に主体的に向き合い、その内容を意欲的に理解している。	文章に対して真摯に向き合うことができない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び技能】 世界の生活文化、防災、地球的課題について理解し、地図、GIS等を活用して、情報を適切に収集・整理する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 地理的事象の位置や分布、相互の関連に着目し、課題を多面的・多角的に考察し、その内容を説明・議論する力を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 地理的課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養	教科書	「高等学校 地理総合」（第一学習社） 「標準高等地図」（帝国書院）
教科	地理歴史	科目名	地理総合			副教材	「地理総合ノート」（第一学習社）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	第1編	1章 1節 球面上の世界と地図 1章 2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	第2編	1章 生活・文化の多様性と国際理解 2章 3節 自然と調和した豊かな社会に向けて 2章 5節 平和で公正な社会に向けて	第2編	2章 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて
	第3編	1章 自然環境と防災			第3編	1章 自然環境と防災
	第2編	1章 生活・文化の多様性と国際理解	テーマ	「気候区分（熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯、高山気候）」 「グループ探究（気候分野） 調査、発表」 「工業・産業」 「世界の宗教」 「世界の民族（タトゥー）」	テーマ	「言語」 「人口問題（移民、難民）」 「火山」 「地震」 「洪水」 「マイタイムライン」
授業時数	25時数		30時数		15時数	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、生成AIや地図、地理情報システムなどを適切かつ効果的に用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についたかどうか。	地理的事象について、多様な空間スケールや相互関係を踏まえて深く理解し、生成AIや地図、GIS、統計資料を適切に活用して地域の特色や課題を的確に読み取っている。	生活文化、防災、地域的・地球的課題について基本的に理解し、生成AIや地図、GIS、統計資料を用いて地域の特色や課題を読み取っている。	生活文化、防災、地域的・地球的課題の基礎的理解や、生成AIや地図、GIS、統計資料の活用に課題がある。	・定期考査 年3回（各学期1回） ・単元テスト
思考力、判断力、表現力等	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用に着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察し、課題解決に向けて構想する力や、考察、構想したことを説明・議論する力が身についたかどうか。	様々な空間スケールから課題を発見し、多様な立場や価値観を尊重しながら、持続可能な将来像や課題解決の方策を多面的・多角的に考察し、根拠をもって表現している。	地理的事象を関連付けながら地域の特色や課題を考察し、資料や学習内容をもとに自分の考えを表現している。	地域の特色や課題について考察しようとしているが、事象の関連付けや根拠に基づく表現に課題がある。	・定期考査 年3回（各学期1回） ・単元テスト
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通し日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚が深まったかどうか。	地理の学びを「わたしの幸せ」や「わたしたちの幸せ」と結び付け、持続可能な地域・世界の実現に向けて主体的・協働的に課題を追究しようとしている。	地理の学びを自分の生活や社会と結び付け、地域や地球的課題について主体的に考えようとしている。	地理の学びを自分の生活や社会と結び付けて考えることや、主体的に課題を追究する姿勢に課題がある。	・授業プリントの取組状況 ・振り返りシートの取組状況 ・グループ探究活動の取組状況 ・課題テスト（国名テスト）

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び技能】 現代社会の課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れ、構想することで議論する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	教科書	公共（東京法令出版）
教科	公民	科目名	公共			副教材	フォーラム公共(とうほう)
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	クラス単位				

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期
	第1編第1章①社会の中のわたしたち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフキャリアの形成 ⑥社会の多様性 第2章 ①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	第3章①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義 第2編第1章①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制	⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判 ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙の仕組みと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加 第2章①経済活動と私たちの生活 ②市場の仕組み ③市場の失敗
授業時数	25時数	28時数	17時数

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	公共にかかわる諸課題に関して、学んだ内容を十分に理解し、知識をもとに課題解決する力が十分に付いた。	公共にかかわる諸事象に関して、学んだ内容を理解し、知識をもとに課題解決する力が付いた。	公共にかかわる諸課題に関して、学んだ内容の理解と課題解決する力が身に付いていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力、判断力、表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	公共にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が十分に付いた。	公共にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が身に付いた。	公共にかかわる諸課題に関して、身に付けた知識をもとに、課題解決に向けて構想し、考察した結果を説明・議論する力が身に付いていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	多面的・多角的な考察や深い理解を通じて蓄積される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。また、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	公共にかかわる諸事象と現代的な諸課題を学び、活用することにより、日本国民としての自覚を十分に深め、人としての在り方生き方を深めようとするものの大切さを十分に自覚している。	公共にかかわる諸事象と現代的な諸課題を学ぶことにより、人としての生き方を深めようとするものの大切を自覚している。	公共にかかわる諸事象と現代的な諸課題の学びが不十分で、日本国民としての自覚と、人としての在り方生き方を深めようとするものの大切が自覚できていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 日本の歴史の流れを、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解し、諸資料の読解を効果的にまとめる技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の歴史に関わる伝統や文化の特色を、時期や現代との比較を通じて多面的・多角的に考察し、説明・考察する能力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 歴史から学び、よりよい社会の実現に向けて課題を主体	教科書	高校世界史探究（山川出版）
教科	地理歴史	科目名	日本史探究			副教材	高校日本史探究ノート（山川出版） 詳説日本史（浜島書店）
単位数	3単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期			
	第Ⅰ部 原始・古代		第Ⅲ部 近世		第Ⅳ部 近代・現代			
	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開  第Ⅱ部 中世 第5章 院政と武士の進出 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長		第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺  第Ⅳ部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開と国際関係		第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 現代の世界と日本			
テーマ	原始・古代から中世に至るまでの政治の変容について学習する。日本史の4つのテーマである「政治」「経済」「外交」「文化」それぞれが密接にかかわっていることを理解し、現代との比較を行う。		テーマ	武家政権から新政府の成立までの過程を理解する。諸外国との関わりを理解し、鎖国体制の開始から開国までの流れを理解し説明できる。		テーマ	憲法の制定と変化により政治の形態が大きく変化したことを理解する。ここまで学んだことを踏まえて現代社会の諸問題について考察し、記述する。	
授業時数	35時間		45時間		25時間			

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び 技能	日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付ける。	日本の歴史における諸事象について十分に理解するとともに、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が十分に身についている。	日本の歴史における諸事象について理解するとともに、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が身についている。	日本の歴史における諸事象についての理解が不十分で、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が身につけていない。	定期考査（各学期1回） 単元テスト
思考力、判断 力、表現力等	日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し構想したりする力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	日本の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築するとともに、それを適切に表現することが十分にできる。	日本の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築するとともに、それを適切に表現することができる。	日本の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築し表現することができない。	定期考査（各学期1回） 単元テスト 提出物
主体的に学 習に取り組 む態度	日本の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象についてよりよい社会の実現に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解により日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。	日本の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築するとともに、それを適切に表現することが十分にできる。	日本の歴史における諸事象を学んだうえで、日本国民としての自覚と、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まった。	日本の歴史における諸事象を学んだうえで、日本国民としての自覚と、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっていない。	提出物 授業ノート

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	【知識及び技能】 世界史の大きな流れを、地理的条件や日本史と関連付けて理解し、資料から情報を適切に読み取り、まとめる力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的事象の意味や特色を、相互の関連・現代とのつながりに着目して多面的・多角的に考察し、考えを説明・議論する力を養う 【学びに向かう力、人間性等】 世界の歴史に関わる課題を主体的に探究し、よりよい社会	教科書	高校世界史探究（山川出版）
教科	地理歴史	科目名	世界史探究			副教材	高校世界史探究ノート（山川出版） グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）
単位数	3単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	必修選択				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成		第Ⅱ部 諸地域の交流・再編		第Ⅲ部 諸地域の統合・変容	
	第1章 文明の成立と古代文明的特質		第6章 イスラーム世界の伝播と西アジアの動向		第12章 産業革命と環大西洋革命	
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界		第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開		第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開		第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国		第14章 アジア諸地域の動揺	
	第4章 西アジアと地中海州の国家形成		第9章 大交易・大交流の時代		第15章 帝国主義とアジアの民族運動	
	第5章 イスラーム世界の成立とヨーロッパ世界の形成		第10章 アジアの諸帝国の繁栄		第16章 第一次世界大戦と社会の変容	
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向		第17章 第二次世界大戦と新しい国家秩序の形成		第Ⅳ部 地球世界の課題	
	テーマ	「古代文明（文明の誕生、オリエント、南アジア、中国、南北アメリカ）」 「中国史（秦、漢、五胡十六国、隋、唐）」 「インド史（〜ヴァルダナ朝、イスラームの侵入）」 「東南アジア史（古代〜12世紀）」 「古代ギリシア・ローマ（キリスト教の成立）」 「イスラーム史（ムハンマドの教え〜アッバース朝）」 「中世ヨーロッパ（ゲルマン人の大移動〜ノルマン人の侵入）」 ★校外夏期講習（オリエント博物館見学）開講予定	テーマ	「イスラーム史（セルジューク朝、エジプト、イベリア半島）」 「中世ヨーロッパ（聖職叙任権闘争、英仏百年戦争、十字軍）」 「中国史（五代十国、宋、元、明、清）」 「イラン史（オスマン帝国、サファヴィー朝）」 「インド史（ムガル帝国）」 「近世ヨーロッパ（ルネサンス、宗教改革、大航海時代）」 「オランダ・イギリス・フランスの台頭」 「北欧、東欧史」	テーマ	「歴史総合の復習」 「歴史総合で扱っていない近現代史を中心に学ぶ」 「地球世界の課題の探究（拉致問題）」
	授業時数	35時数		45時数		25時数

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、世界の歴史に関する様々な情報を諸資料の読解や生成AIの活用により、効果的に調べ、まとめる技能が身に付いたかどうか。	歴史総合で学んだ歴史の学び方や歴史の見方・考え方を活用して、世界の歴史の大きな流れを現代的な諸課題と関連付けて深く理解し、諸資料や生成AIを効果的に活用して情報をまとめることができる。	世界の歴史の大きな流れを理解し、諸資料や生成AIを活用して必要な情報を調べ、まとめることができる。	世界の歴史の基本的な内容の理解や、諸資料・生成AIを活用した情報の読み取り・整理に課題がある。	・定期考査 年3回 （各学期1回） ・単元テスト
思考力、判断力、表現力等	事象の意味や意義、特色を、時期や年代、比較、相互の関連や現代とのつながりに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が身に付いたかどうか	歴史総合で学んだ歴史の学び方や歴史の見方・考え方を活用して、歴史的事象を多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の解決に結びつけて説明・議論することができる。	歴史的事象について、比較や関連、現代とのつながりに着目して考察し、自分の考えを説明することができる。	歴史的事象について、比較や関連、現代とのつながりに着目して考察し、自分の考えを表現することに課題がある。	・定期考査 年3回 （各学期1回） ・単元テスト
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まったかどうか。	歴史総合で学んだ歴史の学び方や歴史の見方・考え方を活用して、世界の歴史に関わる課題を主体的に探究し、現代的な諸課題の解決に結びつけようとしている。	世界の歴史に関わる課題に関心をもち、よりよい社会の実現を視野に入れて、学習活動に主体的に取り組もうとしている。	世界の歴史に関わる課題への関心や、見直しをもって主体的に学習に取り組む態度に課題がある。	・授業プリント、高校世界史探究ノートの取組状況 ・振り返りシートの取組状況

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	教科書	最新 数学Ⅱ(数研出版)
教科	数学	科目名	数学Ⅱ		副教材	Study-UPノート 数学Ⅱ(数研出版)
単位数	4単位	区分	必履修			
学年	2学年	形態	習熟度別			
<p>【知識及び理解】数学の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理する技能を養う。  【思考力、判断力、表現力等】等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し論理的に考察する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を養う。  【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。</p>						

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期		
		<b>第4章 三角関数</b> <b>第1節 三角関数</b> 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 <b>第2節 加法定理</b> 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 <b>第1章 式と証明</b> <b>第1節 式と計算</b> 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 <b>第2節 等式・不等式の証明</b> 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	<b>【第4章の重点的に育てる力】</b> ア 知識及び技能 (7) 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解すること。 (8) 三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 (9) 三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 (10) 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (7) 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。 (8) 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。 (9) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	<b>第2章 複素数と方程式</b> <b>第1節 複素数と2次方程式の解</b> 1. 複素数と2次方程式の解 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 <b>第2節 高次方程式</b> 4. 剰余の定理と因数定理 <b>第3章 図形と方程式</b> <b>第1節 点と直線</b> 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 <b>第2節 円</b> 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 <b>第3節 軌跡と領域</b> 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	<b>【第2章の重点的に育てる力】</b> ア 知識及び技能 (7) 複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすること。 (8) 二次方程式の解の種類の判別及び係数と係数の関係について理解すること。 (9) 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めること。 <b>【第3章の重点的に育てる力】</b> ア 知識及び技能 (7) 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。 (8) 座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。 (9) 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。 (10) 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすること。 イ 思考力、判断力、表現力等 (7) 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察すること。 (8) 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	<b>第5章 指数関数と対数関数</b> <b>第1節 指数関数</b> 1. 指数の拡張 2. 指数関数 <b>第2節 対数関数</b> 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 <b>第6章 微分法と積分法</b> <b>第1節 微分係数と導関数</b> 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 <b>第2節 関数の値の変化</b> 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 <b>第3節 積分法</b> 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	<b>【第5章の重点的に育てる力】</b> ア 知識及び技能 (7) 指数を正の数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法を用いて数や式の計算をすること。 (8) 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 (9) 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすること。 (10) 対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 イ 思考力、判断力、表現力等 (7) 指数と対数を相互に関連付けて考察すること。 (8) 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。 (9) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすること。
授業時数	50	60	30				

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力、判断力、表現力等	目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、数関係に着目し、考察し判断したりする力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	主体的・意欲的に数学的に活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的に活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的に活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				<b>科目の目標</b> 【知識及び理解】 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	教科書	最新 数学B (数研出版)
教科	数学	科目名	数学B		副教材	Study-up ノート 数学B (数研出版)
単位数	2	区分	自由選択			
年次	2年次	形態	自由選択			

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	1章 数列 第1節 数列とその和 第2節 漸化式と数学的帰納法  <内容> 等差数列、等比数列や漸化式で表された簡単な数列及び数学的帰納法を取り扱う。ここでは、等差数列、等比数列などの簡単な数列について、一般項や第 n 項までの和を求めたり、記号Σの意味を理解してそれを用いたりできるようにするとともに、事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察する力を養う。また、数列に関するこれらの考え方を基にして、漸化式と数学的帰納法について理解できるようにするとともに、事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用する力を養う。さらには、自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較して多面的に考察する力を養う。	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測  <内容> 確率の理論を統計に応用し、正規分布を用いた区間推定と仮説検定の方法を理解できるようにする。さらにそれらを通して、母集団の特徴や傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。 なおこれらの内容については理論的な取扱いに深入りせず、具体的な例を工夫したりコンピュータなどの情報機器を用いるなどして確率分布の考えや統計的な推測の考えを理解できるようにする。	第3章 数学と社会生活 第1節 数学を用いた考察 第2節 社会で用いられる数値や指標 第3節 変化をとらえる <内容> OECD の PISA2012 年調査では、「数学的リテラシー」を「様々な文脈の中で数学を定式化し、適用し、解釈する個人の能力」として、「数学的に推論することや、数学的な概念・手順・事実・ツールを使って事象を記述し、説明し、予測することを含む」ことが注意されている。 ここでは、このような国際的な調査で注目されている「数学的リテラシー」も念頭におきながら、社会生活等における問題を解決するための資質・能力を養う。
授業時数	20	30	20

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能をおおむね身に付けている。	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能が身に付いていない。	定期考査
思考力、判断力、表現力等	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けていない。	定期考査
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていない。	提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識・技能】自然の事物・現象についての理解を深め、観察・実験などに関する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見出し、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	教科書	高等学校 新物理基礎（第一学習社）
教科	理科	科目名	物理基礎			副教材	新課程版 ネオパルノート 物理基礎（第一学習社）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	クラス単位				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	【指導目標】物体の運動の様子を捉え、力と運動の関係を見出すことができる		【指導目標】運動とエネルギーの関係が分かり、エネルギー保存の法則を理解することができる		【指導目標】波の性質が分かり、それぞれの波の特徴を捉えることができる	
授業 内容	第 I 章 運動とエネルギー 第 1 節 物体の運動 ① 速さ ② 等速直線運動 ③ 変位と速度 ④ 速度の合成・相対速度 発展 平面上における運動 ⑤ 加速度 ⑥ 等加速度直線運動(1) ⑦ 等加速度直線運動(2) ⑧ 重力加速度と自由落下 ⑨ 鉛直投射 ⑩ 水平投射 7 一次不等式の利用 研究 絶対値と場合分け 第 2 節 力と運動の法則 ① 力と質量 ② いろいろな力 ③ 力の合成・分解と成分 ④ 力のつりあい ⑤ 作用・反作用の法則	⑥ 慣性の法則 ⑦ 力と質量と加速度の関係1 ⑧ 力と質量と加速度の関係2 ⑨ 運動の法則 ⑩ 摩擦力 ⑪ 流体から受ける力	第 I 章 運動とエネルギー 第 3 節 仕事と力学的エネルギー ① 力がする仕事 ② 仕事の原理と仕事率 ③ 運動エネルギー ④ 重力による位置エネルギー ⑤ 弾性力による位置エネルギー ⑥ 力学的エネルギー(1) ⑦ 力学的エネルギー(2)	第 3 節 エネルギーとその利用 ① 太陽エネルギーの利用 ② 原子核と放射線 ③ 原子力とその利用	第 I I I 章 波動 第 1 節 波の性質 ① 波と振動 ② 波の表し方 ③ 横波と縦波 ④ 波の重ねあわせ ⑤ 定常波 ⑥ 波の反射 ⑥ 等加速度直線運動(1) 第 2 節 音波 ① 音の速さと3要素 ② 波としての音の性質 ③ 弦の固有振動 ④ 気柱の固有振動 第 2 節 力と運動の法則 ① 力と質量 ② いろいろな力 ③ 力の合成・分解と成分 ④ 力のつりあい	第 I I 章 熱 第 1 節 熱とエネルギー ① 温度と熱運動 ② 熱と熱平衡 ③ 熱量の保存 ④ 物質の三態 ⑤ 熱と仕事 ⑥ エネルギーの変換と保存
	授業時数	25		25		20

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	物理や物理現象についての観察、実験などを行うことを通じて、物理や物理現象に関する基本的な概念や原理・法則を十分に理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が十分に身に付けている。	物理や物理現象についての観察、実験などを行うことを通じて、物理や物理現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付けている。	物理や物理現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解が不十分であり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が十分に習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が十分に育まれている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法の習得が不十分である。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力の育成が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	物理や物理現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が十分に養われている。その際、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が十分に養われている。	物理や物理現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。	物理や物理現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が不十分である。その際、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の目標	教科書	高等学校 生物 Biology (啓林館)
教科	理科	科目名	生物		副教材	センサー生物 (啓林館)
単位数	3単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	必修選択			
				【知識及び理解】 生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を身につけている。生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物や生物現象に関する問題について、科学的にとらえられる。生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する。		

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期		
	生物の進化や系統について習得する。	生化学について習得する。	遺伝子について習得する。	生物の反応について習得する。	生態系について習得する。		
	第1章 生物の進化 1 節 生命の起源 2 節 生物界の変遷と地球環境の変化 第2章 有性生殖と遺伝的多様性 1 節 有性生殖 2 節 遺伝子の多様な組み合わせ 第3章 進化の仕組み 1 節 突然変異と進化 2 節 進化の要因 第4章 生物の系統 1 節 生物の分類と系統 2 節 3ドメイン説 3 節 細菌ドメイン 4 節 古細菌ドメイン 5 節 真核生物ドメイン 6 節 人類の起源と進化	第5章 生命と物質 1 節 物質と細胞 2 節 生命現象とタンパク質 第6章 代謝 1 節 代謝とエネルギー 2 節 呼吸 3 節 光合成 第7章 遺伝情報と物質 1 節 遺伝情報の複製 2 節 遺伝子の発現 3 節 遺伝子の発現調節	第8章 発生と遺伝子の発現 1 節 動物の配偶子形成と受精 2 節 初期発生の過程 3 節 発生と遺伝子の発現 第9章 バイオテクノロジー 1 節 遺伝子を扱った技術 第10章 刺激の受容と反応 1 節 刺激の受容 2 節 神経 3 節 神経系 4 節 効果器	第10章 刺激の受容と反応 1 節 刺激の受容 2 節 神経 3 節 神経系 4 節 効果器 第11章 動物の行動 1 節 生得的行動 2 節 学習 第12章 植物の環境応答 1 節 植物の生殖と発生 2 節 発芽と成長	第13章 個体群と生物群集 1 節 個体群とその変動 2 節 種内関係 3 節 種間関係 第14章 生態系 1 節 生態系と物質生産 2 節 生態系と人間生活 問題演習		
授業時数	35		35		35		

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。自然界の事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけている。生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を十分に身につけている。自然界の事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を十分に身につけている。生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を十分に習得している。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。自然界の事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけている。生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則の理解が不十分である。自然界の事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養の育成が不十分である。生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱うことや、観察・実験の技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考力、判断力、表現力等	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえる能力が十分である。生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、十分に表現することができる。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえる能力がある。生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえる能力が不十分である。生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現する力が不足している。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲が十分にある。科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲がある。科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心が不足し、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲が低い。科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする姿勢が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識・技能】化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】観察などを行い、科学的に探究する力を養う。 【主体的に取り組む態度】化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	教科書	第一学習社 高等学校 化学
教科	理科	科目名	化学			副教材	新課程版 セミナーノート化学基礎
単位数	3単位	区分	必履修			副教材	新課程版 スクエア最新図説化学
年次	2年次	形態	必修選択				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	電池のしくみを理解する。	希薄溶液の性質を理解する。	化学平衡を理解する。	無機物質の性質を理解する。	有機化合物の特徴を理解する。	芳香族化合物の特徴を理解する。
第II章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解 ①電池 ②電気分解 第I章 物質の状態 第1節 物質の状態変化 ①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線 第2節 気体の性質 ①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体	第3節 固体の構造 ①化学結合と結晶の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質 第4節 溶液の性質 ①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド 第II章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光 ①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則	第3節 化学反応の速さ ①反応速度 ②反応の速さと濃度・温度 ③触媒 第4節 化学平衡 ①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動	第5節 電離平衡 ①電離平衡と電離定数 ②電離定数とpH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ②溶解度積 第三章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質 ①元素の分類と性質 ②化合物の性質と周期表 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素 第4節 遷移元素	第IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴 ①特徴と分類 ②構造式の決定 第2節 脂肪族炭化水素 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素 第3節 酸素を含む 脂肪族炭化水素 ①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン	第4節 芳香族化合物 ①芳香族炭化水素 ②酸素を含む 芳香族炭化水素 ③窒素を含む 芳香族炭化水素 ④芳香族化合物の分離	
授業時数	35		35		35	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、理解が不十分であるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性が習得できている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	物質の状態や物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び技能】 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するため、運動に親しむとともに、公正、協力、責任、参画などの意欲を育て、健康・安全を確保し、粘り強	教科書	現代高等保健体育
教科	保健体育	科目名	体育2		副教材	なし	
単位数	2単位	区分	必修				
年次	2年次	形態	クラス単位				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	ストレッチ	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	ストレッチ	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	ストレッチ
C 陸上競技 ア 短距離走、中距離走	50m・1500m	E 球技 ア ゴール型 イ ネット型	サッカー・アルティメット	C 陸上競技 ア 長距離走	3000m・4000m	
E 球技 ア ゴール型 イ ネット型	バスケットボール 卓球			H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方		
授業時数	24		28		18	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	運動の多様性や体力の必要性について理解しており、それらの技能を十分に身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性についてほぼ理解しており、それらの技能をほぼ身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性について理解が不十分で、それらの技能の習得が不十分である。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分にある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度がある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が不十分である。	授業への取り組み 学習カード 出席状況

令和8年度 年間授業計画				<b>科目の目標</b> 【知識及び理解】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	教科書	現代高等保健体育（大修館書店）
教科	保健体育	科目名	保健2		副教材	なし
単位数	1単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	クラス単位			

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
	3 単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康  思春期から中高年期までに会おうさまざまな健康問題について学習する。	3 単元 生涯を通じる健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活  4 単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚染、土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備  健康に生きていくために、周囲の自然環境に関する健康問題を学習する。	4 単元 健康を支える環境づくり 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加  食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会全体の健康を高めるための環境づくりに参加する意義や方法について学習する。
授業時数	12	14	9

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、技能を十分に身に付けられていない。	定期考査 提出物
思考力、判断力、表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	主体的・意欲的な態度が十分にあり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的な態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的な態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】曲想と音楽の構造や音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】個性豊かに音楽表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	教科書	MOUSA 2
教科	音楽	科目名	音楽Ⅱ			副教材	ジュニアクラスの楽典問題集
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	必修選択				

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期		
	<p>○歌唱</p> <p>SUN,歩いて帰ろう、one more time, one more chance 糸 ハナミズキ</p> <p>j-popを通じて発声方法を養うとともに、楽典で学ぶ音楽記号と譜面との関わりを知り、楽譜に書かれている情報を読み取り音楽表現につなげる力を養う。</p> <p>○ギター・弾き歌い</p> <p>・涙そうそう</p> <p>曲で使うコードを覚えアルペジオ奏法で伴奏できる力を育てる。</p> <p>○楽典・ソルフェージュ</p> <p>・副教材 ～p87</p> <p>楽譜の構造、音符表記、音楽記号・用語を知り、ソルフェージュの能力を高め、音楽表現・演奏活動の基礎的な力をつける。</p>	<p>○鑑賞</p> <p>・グレイテストショーマン</p> <p>声や様々な楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを考える。</p> <p>音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受する。</p> <p>楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の効果を感じる。</p>	<p>○歌唱</p> <p>・合唱 スパークル</p> <p>各パートの首の重なり万や全体の調相を感じながら仲間の声に合わせて歌う力を養う。曲想と歌詞の内容との関わりを感じながら歌唱表現できる力を養う。</p> <p>○和楽器・弾き歌い</p> <p>・涙そうそう</p> <p>我が国の伝統的な楽器に触れる。</p> <p>○鑑賞</p> <p>・Coda あいのうた</p> <p>音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受する。</p>	<p>○楽典・ソルフェージュ</p> <p>・副教材 ～p100</p> <p>楽譜の構造、音符表記、音楽記号・用語を知り、ソルフェージュの能力を高め、音楽表現・演奏活動の基礎的な力をつける。</p>	<p>○歌唱・合唱</p> <p>合唱曲 友～旅立ちの時～</p> <p>各パートの首の重なり万や全体の調相を感じながら仲間の声に合わせて歌う力を養う。曲想と歌詞の内容との関わりを感じながら歌唱表現できる力を養う。</p> <p>○創作</p> <p>コード進行に合わせた旋律を作る力を育てる。</p> <p>イメージを音で表現する力を育てる。</p> <p>・順次進行・跳躍進行を知り、フレーズに効果的の取り込み力を育てる。</p>	<p>○自由演奏発表会</p> <p>これまでに習得した楽器を使って自ら選曲し自ら計画を立てて実行する能力を養う。</p>	
授業時数	24		28		18		

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したするために必要な技能を十分に身に付けていない。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
思考力 判断力 表現力等	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
主体的に学習 に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたる音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】造形的なよさや美しさについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み感性と美意識を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	教科書	高校生の美術2 日本文教出版
教科	芸術	科目名	美術Ⅱ			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	2年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
		1.身近な物を描く ダンボール箱を描く、鉛筆デッサン ・構図と遠近法に基づいて形を取る。 ・空間表現の豊かさを学ぶ。 形と構図が表現に合っているか考えながら制作する。 ・質感表現を学ぶ。 良く観察して質感を表現できるまで、粘り強く描く等する。 鑑賞 講評	2.デザイン 自分の名前を使った平面構成 色の配置と彩色を考える 彩色の技術や仕上げの丁寧さを学ぶ 暖色寒色等色の特性を理解するとともに完成時の表現を最初から計画的に考える力を養う 鑑賞 講評	1.デザイン キャラクターデザイン 企業、学校、商品、ブランドなど アピールしたいものを決める そのものをアピールしたり印象付けたイメージを浸透させるようなキャラクターをデザインする アピールするものの特性をよりよく伝えるにはどのようなデザインがいいのかを考えつつどのような性別年齢層その他に伝わることも考え工夫する 鑑賞 講評	2.彫塑 キャラクターデザイン デザインしたものを立体化し彩色し仕上げる ・立体として多面的に形態を捉え、彫刻作品の構造を理解し作品を制作する。 ・立体として多面的に形態を捉えながら、質感量感を追求する。 正面側面上面からの3面図から立体を作り出せる力を養う骨組みの製作から肉付けに至る技術を身につける 彩色からニスで仕上げる技術を身につける 鑑賞 講評	1.木彫 ペン立てのデザイン 彫刻 組み立て 彩色 仕上げを学ぶ デザインの起案 彫刻刀による掘り方の技法の習得とデザインに沿った使用 彩色から仕上げに至る技術及び丁寧さを学ぶ 鑑賞 講評
授業時数	22h		28h		20h	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	対象や事象を捉えて、造形的な視点について理解している。 創造的な表現をするための技能を身につけている。	授業で得た知識を十分理解しており、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、表現したり、構想を展開させる技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けていない。	課題提出 ワークシート プリント
思考力、判断力、表現力等	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考えるとともに、主題を生成し構想を練って課題に取り組んでいる。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することがほぼ出来ている。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	課題提出 ワークシート プリント
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が十分にある。また、画材や道具も大事に扱い、後片付けもしっかり出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り、考察を深めようとする態度がある。画材や道具の扱い、後片付けも、ほぼ出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が不十分である。道具や画材などの後片付けが出来ない。	課題提出 ワークシート プリント

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】書の表現について幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。【思考力、判断力、表現力等】書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫することができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	教科書	書道Ⅱ
教科	書道	科目名	書道Ⅱ			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	2年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
		○古典の鑑賞と臨書（篆書） ・ 甲骨文の鑑賞と臨書 ・ 金文の鑑賞と臨書 ・ 石鼓文・小篆の鑑賞と臨書  ○篆刻／刻字 ・ 撰文・検字 ・ 原稿作成 ・ 運刀	○作品制作（半切） ・ 臨書する古典を選ぶ ・ 書きたい部分と文字の配置を考える ・ 練習	○作品制作（続き） ・ 作品を完成させる ・ 展示 ※文化祭で学習の成果を発表する  ○古典の鑑賞と臨書（隷書） ・ 書体の変遷と隷書の成立 ・ 乙瑛碑の鑑賞と臨書 ・ 木簡・竹簡の鑑賞と臨書	○古典の鑑賞と臨書（草書） ・ 書譜の鑑賞と臨書 ・ 十七帖の鑑賞と臨書 ・ 自叙帖の鑑賞と臨書  ○古典の鑑賞と臨書（行書） ・ 集王聖教序の鑑賞と臨書 ・ 祭姪文稿の鑑賞と臨書  ○古典の鑑賞と臨書（楷書） ・ 孟法師碑の鑑賞と臨書 ・ 樂毅論の鑑賞と臨書	○古典の鑑賞と臨書（仮名） ・ 三色紙と散らし書き ・ 三色紙の鑑賞 ・ 寸松庵色紙の臨書
授業時数	24		28		18	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び理解	①書の表現の方法や形式、書表現の多様性などについて理解を深めている。 ②書の伝統に基づき、効果的に表現するための用筆・運筆ができています。 ③古典の線質、字形や構成を生かした表現ができています。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けられていない。	・基本的な臨書課題 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
思考力、判断力、表現力等	①書のよさや美しさを感じて捉えることができている。 ②作品制作においては、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かな表現を工夫している。 ③作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	・創作作品・臨書作品の制作 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
主体的に学習に取り組む態度	①書に関心を持ち、主体的に用筆・運筆を身に付け、学習で得た知識・技能を積極的に臨書や創作活動に生かそうとしている。 ②書の伝統と文化に親しみ、生涯にわたり書を愛好する心情を育てている。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	・ワークシート・プリント

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりするために必要な語彙や文法事項の習得。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や場面、状況に応じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現・伝え合ったりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化を理解し、聞き手や読み手に配慮しながら、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	教科書	Power On English Communication II
教科	英語科	科目名	英語コミュニケーションII			副教材	Power On WORKBOOK II Power On スタディノートII
単位数	4単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	習熟度別				

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期
	Lesson1 Play me, I'm yours S+V+O+C [形容詞], S+V [使役]+O+C [原形不定詞], S+V [知覚]+O+C Lesson2 Ethical Fashion S+V+O+C [形容詞], S+V [使役]+O+C [原形不定詞], S+V [知覚]+O+C Lesson3 one for All, All for One 現在完了形, 過去完了形, 仮定法過去のif 節	Lesson 4 Design for Connecting Society: Braille Neue 助動詞+受け身, S+V+C [分詞], S+V+O [if節], It seems [appears] + that節 Lesson 5 New Banknotes It+is [was] +said+that 節, 形式的語it+that 節, 形式的語it+to 不定詞, 助動詞+have+過去分詞 Lesson 6 Vending Machines 関係代名詞 (主格), 関係代名詞の非制限用法, 関係代名詞 (目的格) Lesson 7 Some Secrets about Colors 関係代名詞 (所有格), 同格を表す接続詞that, 前置詞+関係代名詞, 関係副詞whereの非制限用法	Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem 強調構文, 強調の助動詞do, 直前の文を先行詞とする関係代名詞which, to+have+過去分詞 Lesson 9 Flying after Her Dreams 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when] (※要修正反映), 仮定法過去完了, 分詞構文 (過去分詞) Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robots 過去完了進行形, be+to 不定詞, 未来完了形, insist など+that+S+V [動詞の原形]
授業時数	47	47	46

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び 技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法を理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、詳細に聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、詳しく話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法をおおむね理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、おおむね聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、おおむね話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法の理解が不足している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、聞き取ったり、読みとる技能が欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに、話したり書いたりする技能が不十分である。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
思考力、判断 力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあっている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握することに欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに書くことが不十分で、論理性に欠けている。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
主体的に学 習に取り組 む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を何とか整理して把握しようとしている。	定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物

令和8年度 年間授業計画				科目の 目標	【知識及び理解】 日常的な話題や社会的な話題, 国際的な話題について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりするために必要な語彙や文法事項の習得。 【思考力、判断力、表現力等】 目的や場面、状況に応じ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現・伝え合ったりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化を理解し、聞き手や読み手に配慮しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養	教科書	
教科	英語科	科目名	英語演習			副教材	英語総合問題演習WILD ANGLE6
単位数	2単位	区分	必履修				Waching World
年次	2年次	形態	必修選択				

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期
	Lesson 1、イギリス S+V+O+C [形容詞], S+V [使役] +O+C [原形不定詞], S+V [知覚] +O+C Lesson2、シンガポール S+V+O+C [形容詞], S+V [使役] +O+C [原形不定詞], S+V [知覚] +O+C Lesson3、ガンジス 現在完了形, 過去完了形, 仮定法過去のif 節	Lesson 4、オーストラリア 助動詞+受け身, S+V+C [分詞], S+V+O [if節], It seems [appears] +that節 Lesson 5、トルコ It+is [was] +said+that 節, 形式目的語it+that 節, 形式目的語it+to 不定詞, 助動詞+have+過去分詞 Lesson 6、ラマダンラマダン 関係代名詞(主格), 関係代名詞の非制限用法, 関係代名詞(目的格) Lesson 7、ケニア 動名詞、過去分詞、形容詞、副詞	Lesson 8、ロシア 強調構文, 強調の助動詞do, 直前の文を先行詞とする関係代名詞which, to+have+過去分詞 Lesson 9、イギリス 譲歩を表す副詞節, no matter how [where, when] (※要修正反映), 仮定法過去完了, 分詞構文(過去分詞) Lesson 10、ブラジル 過去完了進行形, be+to 不定詞, 未来完了形, insist など+that+S+V [動詞の原形]
授業時数	25	23	22

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び 技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法を理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、詳細に聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、詳しく話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法をおおむね理解している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、おおむね聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、おおむね話したり書いたりする技能を身につけている。	【知識】外国語の文法の形・意味・用法の理解が不足している。 【技能】文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、聞き取ったり、読みとる技能が欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに、話したり書いたりする技能が不十分である。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
思考力、判断 力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握することに欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに書くことが不十分で、論理性に欠けている。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
主体的に学 習に取り組 む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を何とか整理して把握しようとしている。	定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物

令和8年度 年間授業計画				<b>科目の目標</b> 【知識及び技能】 衣食住やお金の基本等を学び、身の回りのことを自分でする技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 身近な生活の課題について、どうすればより良くなるかを自分で考えて判断し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の生活に関心を持ち、周りとの協力しながら進んで生活を整えようとする。	教科書	家庭基礎 明日の生活を築く
教科	家庭	科目名	家庭基礎		副教材	家庭基礎 明日の生活を築く 学習ノート 家庭科5 5 デジタル
単位数	2単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	少人数			

授業内容	1 学期	2 学期	3 学期
		(自分や家族、子どものことを知り、人との関わり方の基本を学ぶ) <b>第1章 青年期</b> ①人の一生と青年期 ②自分らしく生きる ③将来を考えながらこれから生きる <b>第2章 家族・家庭</b> ①自分が拓く人生 ②個人・家族と地域社会 ③家族と法律 ④共生社会を生きる <b>第3章 保育</b> ①子どもの世界 ②新しい生命の誕生 ③子どもの発達 ④子どもとかわる ⑤社会の中で育てる  定期考査	(毎日の服や住まいの整え方を学び、安全で快適に暮らす工夫を身に付ける) <b>第4章 高齢者</b> ①様々な高齢期 ②高齢期の生活を支える <b>第6章 衣生活</b> ①被服の機能と着装 ②快適な被服の科学 ③被服の入手と管理 ④持続可能な衣生活 <b>第7章 住生活</b> ①様々な住まい方と暮らし方 ②健康で快適な住まい ③住まいの防災・減災 ④持続可能な住まいとまち  定期考査
主体的に学習に取り組む態度	23	31	16

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識や技術を十分理解しており、適切に表現したり活用する技能を十分に付けている。	授業で得た知識や技術をほぼ理解しており、適切に表現したり活用する技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したり活用したりする技能を十分に身に付けられていない。	定期考査 提出物
思考力、判断力、表現力等	家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 提出物
主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活に充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	作品提出 提出物

令和8年度 年間授業計画				<b>科目の目標</b> 【知識及び理解】 地域の特性や現状を理解し、ESDIについて深めた知識をもとに、地域の課題を自分事として捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 地域の課題に対して仮説・実証・考察・改善のサイクルを通して、探究活動を深めることができる。また探究活動の過程や成果を適切に捉え、他者に発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働しながらその解決に向けて考察し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する力を育成する。	教科書	なし
教科	総合的な探究の時間	科目名	総合的な探究の時間		副教材	なし
単位数	1単位	区分	必履修			
年次	2年次	形態	少人数			

授業内容	1学期	2学期	3学期
	地域探究 ～まちやまサミットで探究計画をまとめよう！～	地域探究 ～まちやま祭で仮説検証をし、調査結果をまとめよう！～	地域探究 ～まちやま祭後に立てた新たな探究課題を検証しよう！～
	・「地域探究ガイダンス（探究グループ希望調査）」	・「夏休み調査の共有」	・「仮説検証、情報収集（フィールドワークの実施）」
	・「探究グループを知る、探究課題の設定」	・「まちやま祭に向けた準備」 ■探究ブース計画書の作成 ■会場事前視察 ■必要書類（まちやま祭1分間PR届、必要物品書）の提出	・「発表資料（パワーポイント）の作成」
	・「探究計画書の作成」 ■探究課題に対する仮説づくり ■仮説検証方法の検討 ■フィールドワークへ向けた準備 ■調査結果の共有 ■仮説との一致・ずれの確認 ■まちやまサミット後、探究課題・仮説・検証方法を見直す	■物品シール貼り ■事前説明、物品移動 ■前日準備（会場設定）	3月「探究学習発表会（1年間の探究成果をまとめる）」
	6月「まちやまサミット（探究計画の発表）」	11月「まちやま祭～地域の学び場フェス！～（仮説検証）」	
		・「まちやま祭の振り返り（調査結果をまとめる）」	
授業時数	12時数	18時数	5時数

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識及び技能	探究活動が自己の在り方生き方を考え、他教科で身に付けた力を実社会や実生活の中で活用する営みであることを理解し、他の場面で生かせる探究の見方・考え方が身に付いたかどうか。	探究活動の意義を十分に理解し、他教科で身に付けた知識・技能を実社会や実生活の課題解決に結び付け、探究の見方・考え方を他の場面にも生かしている。	探究活動が自己の在り方生き方を考え、他教科で身に付けた力を実社会や実生活で活用する営みであることを理解し、探究の見方・考え方を身に付けている。	探究活動の意義や、他教科で身に付けた力を実社会や実生活で活用することへの理解に課題がある。	・探究計画書、振り返りシートの取組状況 ・フィールドワークやまちやま祭への参加状況 ・発表会での発表内容
思考力、判断力、表現力等	自ら課題を立て、フィールドワークや地域の方・探究支援員との対話や生成AIを活用して情報を集め、比較・分類等の方法で整理・分析し、発表会でまとめ・表現できるかどうか。	自ら課題を立て、フィールドワークや地域の方との対話、生成AIの活用等により情報を集め、比較・分類して整理・分析し、根拠を明確にして分かりやすく発表している。	自ら課題を立て、フィールドワークや地域の方との対話、生成AIの活用等により情報を集め、整理・分析し、発表会でまとめ・表現している。	課題を立てること、生成AI等を活用し情報を集めて整理・分析すること、発表会でまとめ・表現することに課題がある。	・探究計画書、振り返りシートの取組状況 ・フィールドワークやまちやま祭への参加状況 ・発表会での発表内容
主体的に学習に取り組む態度	自ら探究計画を立て、地域の方や探究グループの仲間と協働し、18歳成年年齢を踏まえた立ち居振る舞いを身に付け、よりよい地域・社会づくりに向けて行動することができるかどうか	自ら探究計画を立て、地域の方や仲間と積極的に協働し、18歳成年年齢を踏まえた立ち居振る舞いを意識しながら、よりよい地域・社会づくりに向けて主体的に行動している。	自ら探究計画を立て、地域の方や仲間と協働し、18歳成年年齢を踏まえた立ち居振る舞いを身に付け、よりよい地域・社会づくりに向けて行動している。	探究計画の作成、地域の方や仲間との協働、またはよりよい地域・社会づくりに向けて行動する姿勢に課題がある。	・探究計画書、振り返りシートの取組状況 ・フィールドワークやまちやま祭への参加状況 ・発表会での発表内容